

シュコンカスミソウの夏秋期出荷作型における窒素施用量と採花本数

大竹真紀

(福島県農業総合センター会津地域研究所)

Adequate Level of Nitrogen to Cultivate *Gypsophila paniculata* L. Harvesting in Summer and Autumn

Maki OTAKE

(Aizu Research Centre, Fukushima Agricultural Technology Centre)

1 はじめに

福島県会津地域はシュコンカスミソウの夏秋期の主産地であり、市場性の高い品種を導入するとともに収量を上げる摘心方法の改善を進めている。

主要品種「アルタイル」は、育成した谷¹⁾によると、吸肥力が強く茎葉が剛直になりやすいため施肥量を控える必要があるが、窒素吸収の実態は明らかになっていない。

そこで、高冷地の夏秋出荷作型において摘心方法にあった窒素施用量と採花本数について検討した。

2 試験方法

(1) 試験場所

育苗 福島県河沼郡会津坂下町 福島県農業総合センター会津地域研究所 標高180m

栽培 福島県大沼郡昭和村矢ノ原ほ場 標高650m

(2) 試験期間 2011～2012年

(3) 供試品種 アルタイル

(4) 耕種概要

セル苗を2.5号ポットに仮植して育苗後、株間40cm×2条で雨除けハウスに定植した。芽や枝の整理はせず、現地の慣行に準じ栽培した。

仮植日 2011年6月21日、2012年6月19日

定植日 2011年7月 5日、2012年7月 3日

定植前のEC:0.02ms/cmで、前作はソバであった。

(5) 区の構成及び試験規模

1) 摘心方法：(写真1)

a. 仮植時(慣行) 2011年6月28日、2012年6月26日

b. 定植後 2011年7月15日、2012年7月12日

2) 窒素施用量(kg/a): 0.5(基肥0.5)、0.62(基肥0.5+追肥0.12)、1.0(基肥1.0)、1.12(基肥1.0+追肥0.12)

基肥はかすみ草専用1号(N-P₂O₅-K₂O=11-11-11)、

追肥は多木有機液肥3号(N-P₂O₅-K₂O=6-8-4)250倍液10/株を2回(定植直後と10日後)施用した。

試験区の規模は、1区あたり9株植え付けうち5株を調査し、2反復で行った。

(6) 調査

頂花の第2小花が完全に開花したものを直立した基部から順次収穫し、切り花長、切り花重、調整重を調査したのち、0.5区および1.12区では乾物重

を計量した。降雪目の10月16、17日に残茎および根を採取し、乾物重を調査した。ケルダール法により全窒素を分析し、aあたり270株として窒素吸収量を算出した。

3 試験結果及び考察

(1) 採花本数は、仮植時摘心が3本前後、定植後摘心が6本前後で、窒素施用量による差はなかった(表1)。

採花本数は、基肥の窒素施用量を0.5kg/aに減らしても変わらないと考えられた。

(2) 切り花品質は、いずれの摘心方法においても調整重では窒素施用量による差はなかったが、80cm規格の割合は基肥1.0kg/aで高くなる傾向がみられた(図1)。定植後摘心では1.12kg/aが優るとはいえず、基肥が1.0kg/aあれば追肥は必要ないと考えられた。切り花重は、定植後摘心に比べ仮植時摘心が重い傾向があり、調整時に取り除く枝葉が多かった(表1)。

(3) 地上部の乾物重は、仮植時摘心では窒素施用量による差はなかったが、定植後摘心では切り花において窒素施用量が1.12kg/aで大きかった(表2)。

残茎の乾物重は、仮植時摘心が大きかった(表2)。

根の乾物重は、摘心方法や窒素施用量による差はなかった(表2)。

(4) 窒素吸収量は、いずれの摘心方法でも窒素施用量が0.5kg/aでは0.34kg/a、1.12kg/aでは0.45kg/a程度であった(表2)。窒素施用量を2倍以上に増やしても窒素吸収量の増加は大きくないことから、利用に見合う供給量でよいと考えられた。

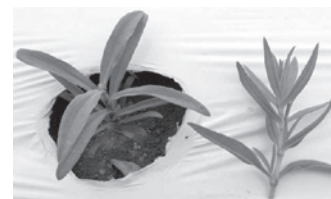
4 まとめ

以上の結果から、シュコンカスミソウの夏秋期出荷作型において、同じ摘心方法であれば採花本数は窒素施用量を0.5kg/aに減らしても変わらないが、定植後摘心により6本程度に仕立てた場合の切り花品質は1kg/aで向上し追肥は必要ないと考えられた。

なお、本試験は、昭和村花き振興協議会の協力で実施した。

引 用 文 献

- 1) 谷 一 道 . 2009. シュッコンカスミソウ「アルタイル LG」の栽培技術. 農耕と園芸 2009.3:100-103.



仮植後摘心

定植後摘心

写真 1 摘心方法

表 1 窒素施用量の違いによる採花本数と切り花品質

摘心 方法	試験 年度	窒素施用 量 ¹⁾	採花本数 (本/株)	切り花 重(g)	調整重(g)
仮植時	2011	0.5	3.6 ± 0.5	67.2	31.1
		0.62	3.3 ± 0.4	66.0	29.6
		1.0	3.3 ± 0.4	77.3	34.0
		1.12	3.7 ± 0.5	70.4	31.5
	2012	0.5	2.9 ± 0.6	58.2	32.9
		0.62	3.2 ± 0.5	58.1	33.7
		1.0	3.0 ± 0.5	65.9	37.4
		1.12	3.5 ± 0.7	57.8	32.6
定植後	2011	0.5	6.4 ± 1.3	59.8	32.5
		0.62	7.9 ± 2.4	54.2	30.0
		1.0	6.5 ± 2.3	62.1	32.5
		1.12	6.5 ± 1.8	63.0	33.2
	2012	0.5	5.0 ± 0.7	47.0	29.6
		0.62	5.4 ± 1.1	50.5	31.2
		1.0	5.6 ± 1.2	57.6	35.8
		1.12	6.0 ± 1.1	52.3	32.7

注) 品種: アルタイル ±標準偏差 n. s. 非有意

1) 基肥+追肥窒素成分量 (kg/a)

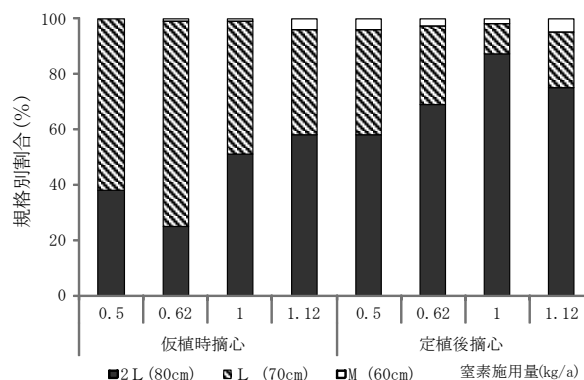


図 1 窒素施用量と切り花の規格別割合(2011, 2012年)

表 2 窒素施用量の違いによる乾物重と窒素吸収量

(2012年)

摘心 方法	窒素施用量 (kg/a)	乾物重(g/株)					窒素吸収量 ¹⁾ (kg/a)
		地上部		根	全重		
		切り花	残茎				
仮植時	0.5	56.3 b	26.6 a	10.3	n. s.	92.4 ab	0.337
	1.12	65.2 ab	35.1 a	10.0		109.2 a	0.445
定植後	0.5	58.3 b	7.7 b	9.3		74.3 b	0.335
	1.12	72.9 a	9.0 b	10.5		91.3 ab	0.457

* 品種 アルタイル 10株調査。残茎及び根は10月16, 17日に採取。

* Tukeyの多重比較法により、異符号間に5%水準で有意差あり。

1) ケルダール法による全窒素、地上部の窒素吸収量、270株/a換算。